

**発芽が早まると見込まれるため、春作業を急ごう！
りんご黒星病、褐斑病の越冬落葉処理を実施しよう！！
腐らん病は見つけ次第、適切な処置を!!!**

I 概要

2月と3月中旬の気温が平年より高めに経過したため、発芽が早まる見込みである。このため、剪定や枝片付けの作業を急ぐ。加えて、施肥作業や薬剤散布の準備や霜害対策などに取りかかる。

黒星病、褐斑病の菌密度を低下させるため、速やかに越冬落葉を除去するかすき込む。枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。胴腐らんは、見つけ次第、速やかに治療する。

ナシマルカイガラムシの発生が多い園地では、「発芽前」にマシン油乳剤50倍を散布する。

II 生育情報

1 生育の進み

2月と3月中旬の気温が高めに経過したため、平年よりも発芽が早まる見込みである。なお、消雪日は、黒石で平年の3月28日より1週間程度早まる見込みである。

○りんごの発芽日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年				
	平 年	4. 6	4. 5	4. 6	4. 7
	前 年	3. 23	3. 22	3. 23	3. 23

注) 発芽日：頂芽の頂部が破れ、青味の現れたものが3個以上認められたとき
平年値：2001年～2020年の20か年平均

2 作業の重点

(1) 剪定、枝片付け

施肥や薬剤散布などの春作業に支障のないように、剪定や枝片付けを急ぐ。剪定後は切り口保護のため、塗布剤を速やかに塗布する。

枝片付けが薬剤散布よりも遅れる場合は、剪定枝を木の根元によせてスピードスプレーヤの走路を確保する。

ただし、剪定枝を園内にそのまま放置すると、腐らん病、リンゴハダニ、ハマキムシ類の発生源となるため、早めに処分する。

(2) 野ネズミ対策

ア 被害樹の処置

地際部付近の樹皮を完全に一周して食害された場合は、盛土を行い、カルスの形成を促すと同時に、可能なものは寄せ接ぎを行う。

地際部以外では、食害の程度に応じて、バッチレートを塗布するか、テープを巻いてカルスの形成を促す。

いずれも食害が甚だしいものは植え替えを行う。

イ 駆除

野ネズミの密度が高い園地では、融雪後も根の食害を中心に被害が継続するので、早めに駆除対策を実施する。殺そ剤を使用する場合は、農薬使用基準を遵守する。

(3) 施肥

消雪後、できるだけ速やかに行う。遅くとも4月20日頃までに基肥の施用を行う。

(4) 霜害対策

花芽の耐凍性は、発芽とともに低下し、展葉期から花蕾着色期までは約 -2°C になると花芽に障害が出始めるので、自園地の生育状況と気象情報に十分注意し、防霜ファンなどの点検・整備を行うなど霜害対策に努める。

(5) 薬剤防除などの準備

スピードスプレーヤなどの点検・整備を行うほか、春作業に使用する資材などを早めに準備する。

(6) マメコバチの活動時期の調整

マメコバチの活動が早まると見込まれるので、巣筒の状態を確認し、まゆを破るカチカチという音がし始めた頃に、巣箱を0～5℃の冷蔵庫に入れて保管する。

(7) 粗皮削り

粗皮削りは、胴腐らの早期発見やハダニ類、クワコナカイガラムシの防除に役立つので、必ず実施する。

(8) 病虫害対策

ア 黒星病、褐斑病対策

りんごの黒星病、褐斑病の菌密度を低下させるため、速やかに越冬落葉を除去するかすき込む。

なお、落葉収集機を利用すると被害落葉を効率的に収集できる。



落葉収集機

イ 腐らん病対策

枝腐らは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。胴腐らは、見つけ次第、速やかに治療する。

ウ ナシマルカイガラムシ対策

ナシマルカイガラムシの発生が多い園地では、「発芽前」にマシン油乳剤50倍を特別散布する。

ナシマルカイガラムシ防除剤（対象：越冬幼虫）

薬剤名	倍数	使用時期
トモノールS スプレーオイル ハーベストオイル	50倍	発芽前

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉の使用自粛のお願い 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《 モモシンクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

令和6年りんご病害虫防除暦の基準薬剤に交信攪乱剤（コンフューザーR）が採用されました。

- ①リンゴコカクモンハマキにおいて殺虫剤の効果が低下していること
- ②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
- ③高温下では害虫の成育スピードが速まるため、薬剤防除を主体とした防除ではシンクイムシ類の被害抑制が困難であること

などの理由により、防除体系が変更となります。ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、ぜひ自園地へ導入してください。

《 青森県総合防除計画 》

総合防除とは、有害動植物の発生及び増加の抑制並びにこれが発生した場合における駆除及びまん延の防止を適時経済的に講ずることです。

県では、総合防除を推進するため、植物防疫法に基づき、国が定める総合防除基本指針に即して、かつ、地域の実情に応じて、指定有害動植物の総合防除の実施に関する計画（「青森県総合防除計画」）を定めています。

青森県総合防除計画では、農業者が遵守すべき事項（「遵守事項」）の対象として、りんご「モモシンクイガ」を設定しているため、まん延を防ぐための防除に努めましょう。

※県は、モモシンクイガの防除が適正に行われるように、指導及び助言、勧告、命令を行うことができ、命令に従わない農業者は、30万円以下の過料に処されます。

○りんご「モモシンクイガ」の遵守事項（一部要約）

（1）予防に関する措置

被害果は必ず処分するとともに、交信攪乱剤の設置や袋かけを行う

（2）判断、防除に関する措置

被害果は見つけ次第摘み取り処分するほか、薬剤散布による定期防除を行う

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ

電話番号：017-722-1111代表

内線5093、5094

017-734-9492直通

「令和6年産りんご生産情報第1号」及び「令和6年産特産果樹生産情報第1号」は4月上旬に発行予定です。